

Smart City Takeshiba (竹芝Marine-Gateway Minato協議会)

■都市課題

災害発生時に**自治体が収集する情報がバラバラ**であり、来街者へのさらなる効率的な「避難誘導」が求められている。

■解決方策

自治体の情報収集等を効率化する統合管理UIを開発。エリマネLINEと連携し、来街者に情報を届け、さらに**来街者からの情報発信にも活用し効果的な避難を促進**。

■KPI

〈市民の声を都市OSに反映しデータを集める〉
 ・竹芝エリアマネジメント Line ユーザー認知度：70%
 〈情報を一元管理することで円滑な情報提供を行う〉
 ・一元管理する情報媒体、一斉送信可能なツール数：確認する媒体全て
 ・利便性満足度：80%

■実証実験の概要・目的

・台風・豪雨などの災害時における自治体の情報収集の効率化およびエリマネ情報連携による効率的な避難誘導の効果検証を目的とした、ソフト防災サービスを開発する。**情報集約・発信に関して対応時間の短縮化が確認され、エリマネLINEによる効率的な避難行動を実現する。**

■実証実験の内容

①情報統合による自治体の情報収集・集約の効率化検証

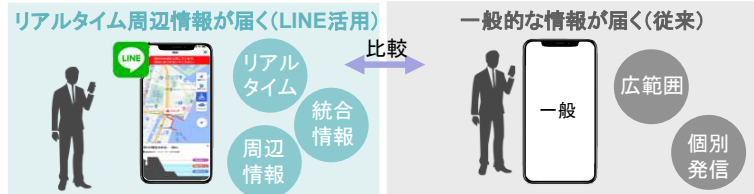
災害対応の情報収集・共有に、従来と管理者向けのWEBUIを比較するABテストを実施。「所要時間」と「正確性」の変化を測定。

- ・まちの情報収集、
- ・被害情報マッピング作業 等



②情報発信による来街者の避難行動の効率化検証

LINEから街の状況を報告できる機能を追加開発し、指示内容と街の情報を来街者に届けることで街の人々の行動は促されるかを検証した

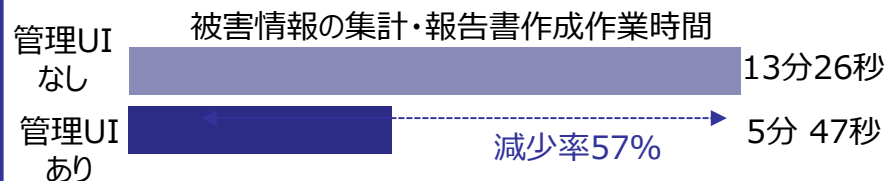


発災時の推奨行動が促された割合を評価

■実証実験で得られた成果・知見

①自治体の情報収集・集約の効率化検証の結果

- ・管理UIにより、災害情報の集約・共有の**正確性が向上**
- ・複数の作業において**所要時間が50%以上削減**



②来街者の避難行動の効率化検証の結果

- ・豪雨・台風・地震発生時を想定したシーンでは、従来の情報取得方法と比較して、LINEを活用することで**発災時の推奨行動を選択する割合が21%増加**した。

■今後の予定

今回対象	令和4年度	令和5年度	令和6~8年度
防災サービス	開発・検証	改修	実装 運用保守
セキュリティ検討等	開発・検証		継続検討